

薬剤破損削減に向けた取り組み

井関香寿美¹⁾ 河村佳奈子¹⁾ 野村梨絵¹⁾ 白崎温久²⁾

要旨：薬剤破損の原因を明確にし、薬剤破損削減に向けた取り組みを行った。薬剤破損理由の内訳では破損が一番多く、その要因である環境整備と薬剤管理方法の見直しをした。その結果、薬剤破損率は99.6%減少し、病棟スタッフの薬剤破損に対する意識づけができた。

【Key words】薬剤破損、環境整備、薬剤管理方法

緒言

12病棟は内科急性期病棟で注射施行患者様が多く、多種多様な薬剤を取り扱っている。日々の業務の中で薬剤破損することもあり、平成19年の薬剤破損集計では、12病棟の薬剤破損数は他病棟に比べ上位となっていた。そこで薬剤破損について見直し、薬剤破損率60%減少を目標に業務改善に取り組んだ。

方法

- ① 平成19年の薬剤破損集計を調査し、12病棟と全病棟を比較した。
- ② 12病棟の薬剤破損理由の内訳を調査した。
- ③ 薬剤破損しやすい要因を検証し、業務改善に取り組んだ。
- ④ 業務改善前後で薬剤破損率を比較した。

結果

- ① 平成19年の薬剤破損集計を調査した結果、全病棟の平均値は0.72%で、12病棟は1.44%であった(図1)。
- ② 12病棟の薬剤破損理由の内訳は、破損31%、調製ミス17%、処方中止24%、処方変更8%、その他20%で破損が一番多かった(図2)。
- ③ 薬剤破損しやすい要因として、薬剤を調整する環境、

看護師の手技、医師の指示、患者様の状態変化が考えられた(図3)。薬剤破損を減らすための具体策として、ミキシングする場所が狭く看護師同士がぶつかりやすかったため、スペースを広くした。アンプルの固定方法が様々で、手を滑らせてしまうことがあったため、アンプルは袋に入れるようにした。薬剤管理方法が乱雑であったため、保管方法を改善した。また、病棟勉強会で薬剤破損状況を説明し、病棟スタッフに対し薬剤破損に対する意識付けをした(図4)。

- ④ 業務改善に取り組んだ結果、12病棟の破損率は0.005%で改善前に比べ99.6%減少し、目標を達成することができた(図5)。

また、薬剤破損率の内訳を見ると、破損は81.8%減少した(図6)。

考察

薬剤破損の原因を明確にするため、薬剤破損理由の内訳を調査した。その結果、破損が一番多く、その要因として環境整備と薬剤管理方法が挙げられた。環境整備と薬剤管理方法の見直しをし、破損を減少させることができた。また、病棟スタッフに12病棟の薬剤破損の現状と他病棟との比較を報告することで、薬剤破損に対する意識づけができた。

薬剤破損が減少したことは、コスト削減につながったと考える。しかし、今回注目した破損については減少し

¹⁾ 福井総合病院 12病棟

²⁾ 福井総合病院 内科

(受付日 2009年3月)

たが、調整ミス割合に変化はなかった。今後も薬剤破損状況の調査の継続と、病棟スタッフの確認の徹底、指導の徹底に力を入れたい。また、コスト面での調査も含め、薬剤破損のさらなる減少を目指していきたい。

参考文献

- 1) 伊藤梨絵：薬品の破損経験を減らそう。第8回フォーラム「医療の改善活動」 2006；53-56

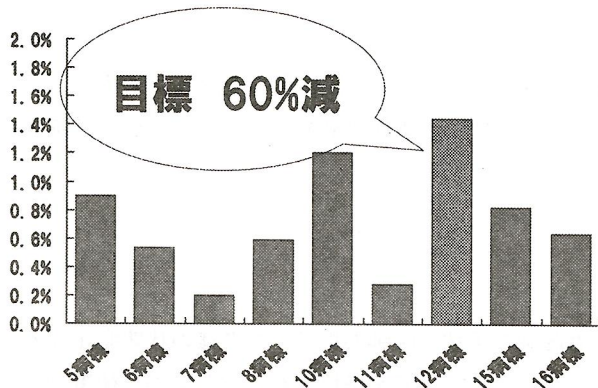


図1：病棟別薬剤破損率

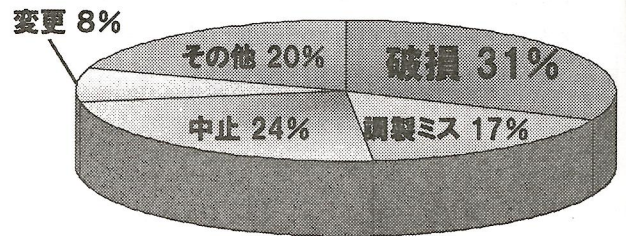


図2：薬剤破損理由の内訳

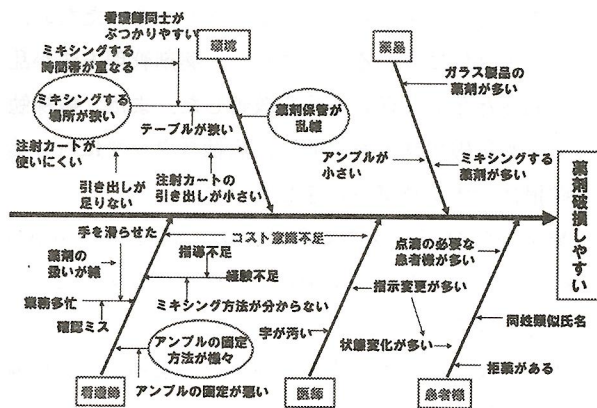


図3：要因解析

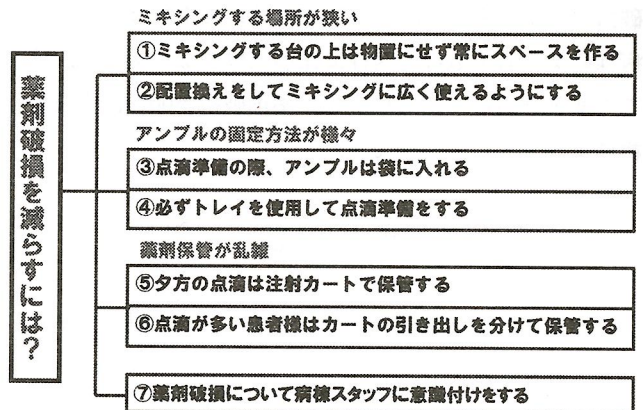


図4：対策立案

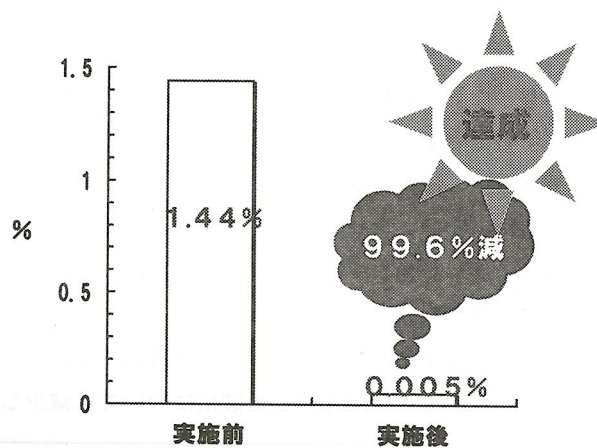


図5：薬剤破損率

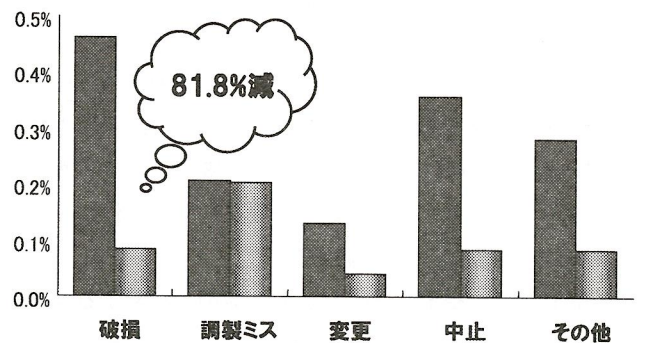


図6：薬剤破損率の内訳